

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより

NO13-1

平成28年10月17日(月)

文責 小俣 一夫

実りの秋 子どもに豊かな体験を！

10月7日(金)に全校が秋の遠足に出かけました。今年は9月から10月にかけて晴天の日が数えるほどしかありませんでした。子どもたちの心がけが良かったのでしよう！遠足当日は澄み切った秋の素晴らしい天候に恵まれ、雨を心配することなく秋の一日を思いっきり楽しむことができました。

運動会に続いて、また一つ大きな行事が終わりました。個人差はありますが、子どもたちは行事が終わるとしばらくの間「脱力感」を心と体を感じているかもしれません。そんな時には、頭も体も全く異なった方向へシフトチェンジさせることも必要です。運動会や遠足をやり遂げ、所期の目的を達成した子どもたちは、今、自信をみなぎらせながら、嬉々として次の目標に向かって進み始めているのではないのでしょうか。

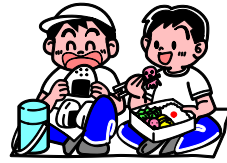
休み明けの月曜日、「校長先生、あのね、昨日 みんなで〇〇したんだよ。」と子どもが瞳を輝かせながら話しかけてきます。その表情や語り口調から、楽しく有意義な休日であったことが容易に想像できます。

放課後や休日は、子どもたちが自由に活動できる時間です。しかし、様々な調査によると、子どもたちの自由な時間の過ごし方は「TVゲームやPCにスマホ」「テレビやビデオ」が小学生から高校生まで全て1位と2位を占めており、外で遊ぶことが非常に少ないという実態も明らかになっています。逆に、塾や習い事等に追われ、もっとゆっくり過ごしたいと思っている子どもたちも過半数を超えているそうです。

一方、「生活経験が豊富な子ども」「家の手伝いを進んでする子ども」「自然体験が豊富な子ども」は道徳観が充実している傾向があることも報告されています。

いずれにしても、しっかりと計画的に過ごさせることが大切です。特に高学年になれば、自分自身を客観的に振り返り、その行いを修正、改善してしっかりコントロールすることが必要です。

「自己を見つめ直し、つぎの行動を促す力」この力こそ、一生生きて働く力「自己教育力」だと思います。学校と家庭との共通理解の中で、放課後や休日を計画的に過ごす力を付けさせたいものです。



藤本衆議院議員

宝の山に登ったよ、川で遊んだよ！

子どもたちを乗せたバスが、宝鉱山バス停に到着すると、宝の山を知り尽くしている佐藤さん、宝の里の小澤さん、都留文科大学生の前田さんが笑顔で迎えてくれました。講師の紹介と諸注意に続き、「がんばるぞー」「オー」、2年生のゆめさんのかけ声で、宝の山に向けて全員元気に出発しました。三つ峠登山道入口までの山道を、途中シカやイノシシの足跡を見たり、ドングリや松ぼっくりを拾ったりしながら歩きました。「これがシカの通ったところ？」「このドングリは最高。」など、子どもたちは思い思いに自然を感じているようでした。

三つ峠登山道入口に着き、まずは一番大切なトイレ作りです。佐藤さんが、スコップ、洋式便座、ブルーシートを用意しておいてくれました。「トイレ作り隊」を結成し、トイレの場所を決めました。2年生の男子が中心となり、スコップで穴を掘りました。続いて、洋式便座を置き、周りをブルーシートで覆って完成です。完成後、すぐに使っている子もいました。

いよいよ子どもたちの楽しみにしていたお弁当です。2年生が1年生に声をかけて、仲良くグループを作り、お家の方の心のこもったお弁当を食べていました。お弁当の自慢をしたり、話をしたりと本当に楽しそうでした。お弁当を食べた後のおやつタイムでは、互いに持ってきたおやつを交換していろいろな物を味わっていました。



1年生、はいポーズ



2年生、はいポーズ

川で楽しく遊んだ後は、着替えをして帰り道になります。歩きながら、リースに使うドングリや松ぼっくりを拾いました。帰りも小澤さんが車で、後ろから子どもたちの様子を見守ってくれました。やがて、「宝の山ふれあいの里」の広場に着きました。平らな緑の広場にある斜面をみんなで滑って真っ黒になって遊びました。佐藤さんと相撲を取ったり、裸足で鬼ごっこをしたりと芝生の気持ちよさを体で感じていました。

宝鉱山バス停で、佐藤さんと小澤さん、前田さんにお礼を言って、バスに乗りました。先頭に立って歩き、宝の山のことを教えてくれた佐藤さん、子どもたちをいつも見守ってくれた小澤さん、子どもたちと一緒に遊んだり手伝いをしてくれた前田さん、ありがとうございました。バスの中から笑顔で手を振る子どもたちを見て、一人ひとりにきっと楽しい思い出ができたと感じました。(文責 教頭 高尾貞明)

3・4年生 秋の富士北麓を満喫！

3・4年生は、みんなで意見を出し合い決めた「自然や富士山について学ぶ」「楽しく活動する」という2本柱の目標のもと、「富士山科学研究所」と「河口湖フィールドセンター」に行ってきました。

最初の目的地である富士山科学研究所に到着し、バスを降りると「わっ！寒い！」「都留と全然違う！」という声が続々と聞こえ、都留市と富士山のふもとの気候の違いを肌で感じ、急いで長袖を着る子どもたちが沢山いました。荷物を置いてから4グループに分かれ、スタッフの方を先頭に森の探検に出かけました。探検の中では、溶岩がどんな性質を持っているのか実験したり、溶岩樹形がどのようにして出来たか説明を聞いたり、実際に森の中の木道を歩いて様々な植物や動物を見たり、触ったり…子どもたちはみんな興味津々、五感をフル稼働させてたくさんの発見をしていました。探検から戻り、みんなで種の模型を作って飛ばす実験をした後は、待ちに待ったお弁当タイム。お家の方が朝早くから作ってくれた愛情たっぷりのお弁当をみんな美味しく、ニコニコで頬張り、午後の活動に向けてパワーをチャージしました。

フィールドセンターでは、オリジナルの鳥笛を1人1つ作りました。どんな絵にするか、何色にするか「う〜〜ん…」と悩んだ末、好きな動物や自分の頑張っているスポーツを描く子、世界の国旗を描く子、今日の学習に因んで富士山を描く子など、それぞれ思い思いに世界に1つだけの鳥笛を完成させていました。鳥笛作りを教えてくださいましたスタッフの方が「宝小の子ども達は、みんなアート性が高いですね。なかなか見られないデザインがたくさんで楽しいです。」と褒めて下さいました。鳥笛作りと平行して、船津胎内神社にある、溶岩樹形によって出来た洞穴の見学にも行きました。暗く狭い洞穴でしたが、怖がることもなく「なんだか居心地がいいなあ、ここ。」なんて言っている子もいました。

全ての活動を終え、名残惜しい様子でバスに乗り込んだ後は1人ひとりで感想発表をしながら帰り、それぞれ心に残ったことをしっかり発表していました。「知らなかったことを今日たくさん知ることが出来てよかった。」という感想を聞き、今朝宝小を出発した時より、ひとまわりもふたまわりも大きくなって帰ってきたのだということを強く感じました。小さな発見、大きな発見、私たち大人ではきっと気付くことの出来ないような発見が盛りだくさんで、子どもたちの心に残る大満足の遠足となりました。



俺たち なかなか上手だね！



3年生全員集合です！

(文責 養護教諭 和田あずさ)